

学びの困難さに対する 指導の手立て集



令和4年3月 千葉県・千葉市教育委員会

はじめに

新しい学習指導要領は小学校においては令和2年度から、中学校においては令和3年度から実施されています。

今回の学習指導要領改訂のポイントとして、社会に開かれた教育課程、育成を目指す資質・能力の明確化、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、カリキュラムマネジメントの推進などが挙げられますが、特別支援教育に関する規定も大幅に改善されました。具体的には、特別支援学級等における教育課程編成の基本的な考え方や、通常の学級においても個に応じた指導を充実させるための教育課程実施上の留意事項などが一体的に分かるよう充実が図られました。また、学習指導要領の各教科等解説においては、障害のある児童生徒への配慮が、それぞれの教科の学習を進めていく上での、想定される「困難さ」「指導の工夫の意図」「手立て」の3段階で示されるようになりました。

千葉県教育委員会では、この学習指導要領を踏まえ、障害のある児童生徒等の学習上の困難さに応じた指導内容や指導方法の考え方、実践が、先生方にとって分かりやすく、より身近なものになるよう、千葉県版の「学びの困難さに対する指導の手立て集」を作成しました。

全ての先生方が適切な指導及び必要な支援を提供することにつながり、障害のある児童生徒がその能力や可能性を最大限に発揮しつつ、自立と社会参加に向けて生き生きと活躍できるよう、また、個に応じた教育の更なる充実を図るための一助となればと考えています。

本冊子が活用され、児童生徒等の十分な学びの保障へとつながることを心から願っています。

令和4年3月

千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課長

青木 隆一

本冊子の内容については、千葉県教育委員会（特別支援教育課）のホームページにカラー版にて、掲載する予定です。
研修などで、どうぞ御活用ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shien/index.html>



学習指導要領はこう変わりました！

平成 29 年告示の小学校学習指導要領、中学校学習指導要領ともに特別支援教育に関する規定が大幅に改善・充実されました。本手立て集を参照いただく前の基礎知識として、学習指導要領改訂のポイントを紹介します。ここでは小学校学習指導要領の規定を記載しますが、中学校学習指導要領も同様です。中学校の先生方は「児童」を「生徒」と読み替えてください。



【旧学習指導要領（平成 20 年度告示）】

第 1 章総則第 4 の 2 の（7）

障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、例えば指導についての計画又は家庭や医療、福祉等の業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。特に、特別支援学級又は通級による指導については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行うこと。

全体を通じて、特別支援教育に係る規定はこれが全てです。基本的事項が示されていますが、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」といった用語は、使われていないことが分かります。



大幅に改善・充実しました！

【現行学習指導要領（平成 29 年度告示）】

第 1 章第 4 の 2

（1）障害のある児童などへの指導

ア 障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

イ 特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。

(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 7 章に示す自立活動を取り入れること。

(イ) 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

アは、特別支援学校のセンター的機能の活用、指導内容や指導方法の工夫について、旧学習指導要領から引き続き示されています。

なお「計画的・組織的」の順が「組織的・計画的」と変わっています。このことにより、個々の教員ではなく、学校組織として取り組んでいくことの重要性が明確になりました。

イでは、特別支援学級において実施する特別の教育課程編成の基本的な考え方が新たに示されています。

その際、自立活動を取り入れるとともに、下学年の教科や知的障害特別支援学校の教科に替えるなどの教育課程編成が可能であることが明示されました。

自立活動の詳細については、特別支援学校学習指導要領解説の自立活動編を参照してください。

ウ 障害のある児童に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、効果的な指導が行われるよう、各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

ウでは、通級による指導における教育課程編成の基本的な考え方が新たに示されています。

その際、自立活動の内容を参考とすることが明記されました。教師間の連携の重要性については、引き続き示されています。

エ 障害のある児童などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。

エでは、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の意義や作成と活用について、新たに示されています。

特別支援学級と通級による指導においては、努力義務ではなく、作成・活用が必須となっていることに留意が必要です。

ここまでは第1章総則で示されている規定ですが、今回の学習指導要領ではさらに第2章以下の各教科等の「**第3 指導計画の作成と内容の取扱い**」の項に、新たに次の規定が共通的に示されています。

第3 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

ここで言う「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」の具体的な事例が、本書で紹介されているということになります。

本手立て集を読み進めるまえに、押さえていただきたいことを解説から引用します。

「障害のある児童などには、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、情緒障害、自閉症、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）などのほか、学習面又は行動面において困難のある児童で発達障害の可能性のある者も含まれている。このような障害の種類や程度を的確に把握した上で、障害のある児童などの「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を検討し、指導に当たっていく必要がある。また、このような考え方は学習状況の評価に当たって児童一人一人の状況をきめ細かに見取っていく際にも参考となる。その際に、小学校学習指導要領解説の各教科等編のほか、文部科学省が作成する「教育支援資料※」などを参考にしながら、全ての教師が障害に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深め、障害のある児童などに対する組織的な対応ができるようにしていくことが重要である。」

※現在は、「障害のある子供の教育支援の手引き」となっています。

も

く

じ

学びの困難さに対する 指導の手立て集

○はじめに

○学習指導要領はこう変わりました！…………… 1

○目次…………… 3

○手立ての考え方…………… 4

○教科・領域別 <困難さに応じた手立て>

NO	各教科・領域等	困難さの背景
1	国語	イメージする・想像する／読む・読み取る／話す・聞く／気持ちを表現する／書く（描く）・書きとる
2	算数／数学	イメージする・想像する／見通しをもつ
3	理科	道具を操作する／見る・観察する／見通しをもつ／表現する／感覚が過敏である
4	社会	イメージする・想像する／読む・読み取る／見通しをもつ
5	生活	イメージする・想像する／書く（描く）・書きとる／指示を理解する／話す・聞く／状況を把握する／道具を操作する
6	外国語	聞く（聴く）・聞き取る／読む・読み取る／見通しをもつ／イメージする・想像する
7	図画工作／美術	イメージする・想像する／聞く・聞き取る／道具を操作する
8	音楽	イメージする・想像する／聴く・聴き取る／見る／気持ちを表現する／体の動きを調整する／操作する
9	体育／保健体育	体の動きを調整する／状況を把握する／見通しをもつ／見る・観察する／指示を理解する
10	家庭／技術・家庭	道具を操作する／指示を理解する
11	特別な教科 道徳	イメージする・想像する／読む・読み取る／心情を理解する
12	総合的な学習の時間	見る・観察する／イメージする・想像する
13	特別活動	心情を理解する／話す・聞く／見通しをもつ／イメージする・想像する／気持ちを表現する
14	教室環境を整えよう	状況の把握をする／刺激の調整をする

○編著者…………… 46



手立 考 え 方

【困難さの背景】

〇〇さんは、◆◆なことが苦手かもしれないな。


読む・読み取る

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
文章を読み取ったり、要約したりすることが難しい	文章の内容をイメージできるように

【困難さ】
 〇〇さんは◆◆なことが苦手だから、授業でこんなことに困っているのではないかな？このままでは学習が面白くないだろうし、どうすればいいだろう。

【指導の工夫の意図】
 〇〇さんは、こんなことに困っているのだから、◇◇できるようにしてあげたい。そうすれば、他の児童生徒たちと同じように授業に参加でき、教科の目標も達成できるかもしれない。



<手立て>	
① 具体的にイメージできるようにする	② ○○○○○○○○○○
<ul style="list-style-type: none"> ・話のイメージ（流れ）がつかみやすいように、ポイントとなる場面のイラスト（挿絵）を追加する。 ・物語の読み取りにおいては、気持ちを表す言葉をカードに書いて示す。 	<p>【手立て】 指導の工夫の意図を踏まえて〇〇さんの困難さに対して、こんな配慮や工夫をして授業や学習活動をしてみよう！</p>

ポイント！

本紙に例示されている事例は、あくまでも一般的な事例になります。困難さのある全ての児童生徒に当てはまるものではありません。また、同じ困難さを抱えていても、必ずしも同じ「手立て」が有効であるとは限りません。目の前にいる児童生徒に合った指導・支援を見つけてください。

国語

イメージする・想像する

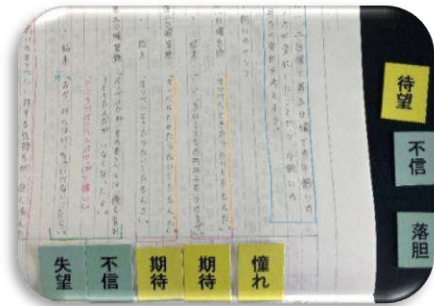
<困難さ>	<指導の工夫の意図>
物語の中で登場人物の立場で考えたり他者の感情を理解したりすることが難しい	行動や会話文に気持ちが込められていることに気付くことができるように



<手立て>

気持ちの変化が分かる文章の中のキーワードを示す

- 感情を示すキーワードや表情が書かれたカードを用意する。



ポイント！

肯定的イメージと否定的イメージ等、言葉の性質や役割で色分けして示すとよりイメージしやすい。

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
漢字を覚えることが難しい	漢字の構成を理解して覚えることができるように



<手立て>

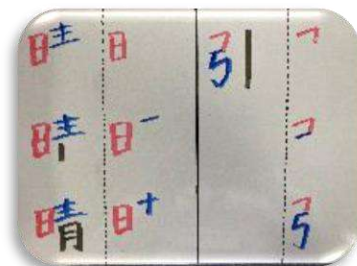
① 漢字を「へん」や「つくり」等に分けて覚える

- 「へん」「つくり」、部首等に色分けしたカードを使って組み合わせる。



② 書き順を色で示す

- 書き順を色で示したカードを使用する。




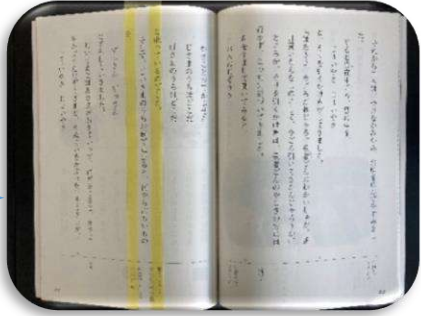
ポイント！

「その児童生徒に合った覚え方」を、一緒に考え、試行錯誤することで「覚え方」を見つけることができる。

読む・読み取る


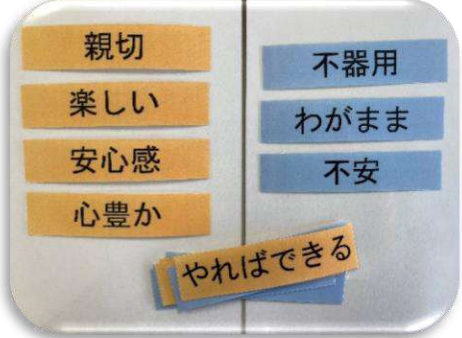
<困難さ>	<指導の工夫の意図>
文章を目で追いながら音読や黙読をすることが難しい	自分がどこを読むのかが分かるように



<手立て>		
<p>① 指等で文字をなぞる</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み始めの部分に指先などを合わせる。その後、音読の速度に合わせて指を動かす。 	<p>② 文字を認識しやすくする</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を拡大することで、文字を大きく、行間を広げる。 <p>ポイント! 学習者用デジタル教科書の活用も有効な手立ての1つである。</p> <p>ポイント! スリットに透明な素材を使うことで前後の文の関係が捉えやすくなる。</p>	<p>③ 範囲の焦点化をする</p> <ul style="list-style-type: none"> スリットを活用して視覚に入る情報を抑制する。 

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
文章を読み取ったり要約したりすることが難しい	文章の内容をイメージできるように



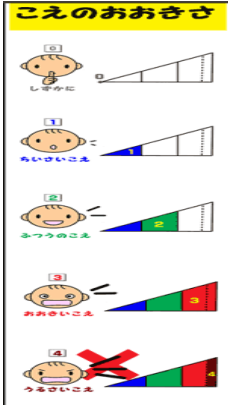


<手立て>	
<p>① 具体的にイメージできるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 話のイメージ（流れ）をつかみやすいように、ポイントとなる場面のイラスト（挿絵）を追加する。 物語の読み取りにおいては、気持ちを表す言葉をカードに書いて示す。  <p>ポイント! 視覚的に示すことで、比喩表現にも着目できるようにすることが大切である。</p>	<p>② 文章の内容のキーワードを明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 比喩やイメージを表す言葉は分かりやすいように同じ色のカードにして視覚的に示す。  <ul style="list-style-type: none"> 文のまとめりごとのキーワードを付箋に書き出し、グループごとに並べ替えをして視覚的に整理する。

話す・聞く

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
声の大きさや話す速さなどを調整することが難しい	丁度よい声の大きさと速さがあることに気付くことができるように



<手立て>

① 手本を示す	② 丁度良い速さのリズムをつかむ	③ ICTを活用する
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな声の大きさを聞き、丁度よい声の大きさに気付くように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の区切りや間の取り方を手拍子にして伝える。  <div data-bbox="718 840 1093 1064" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ポイント！ 「相手に伝える」「話す内容を明確にする」等の目的を意識して取り組むことが重要である。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 発表を録音し、本人が確認できるようにする。 

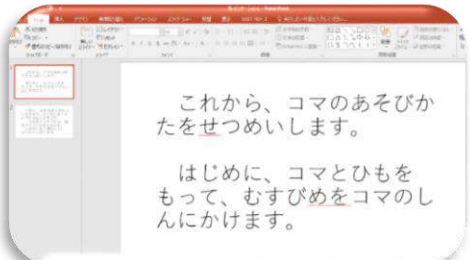
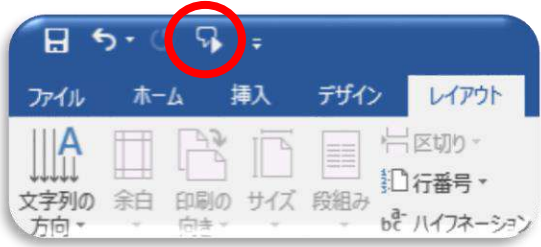
気持ちを表現する

話す・聞く

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
声に出して発表することや人前で話すことに不安を抱いてしまう	自分の考えを安心して伝えることができるように



<手立て>

多様な表現方法を選択することができるようにする	
<ul style="list-style-type: none"> ミニホワイトボードに書いて黒板に貼る。 プレゼンソフトでスライドに入力し、電子黒板に写す。 	<div data-bbox="837 1624 1444 1803" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ポイント！ 本人が取り組むことができる表現方法を選択し、発表に取り組むという経験を積み重ねることで達成感、不安の軽減につながる。</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> 授業者や仲間が聞き取り、その内容を他の児童・生徒に伝える。 タブレット端末等に入力した文の読み上げ機能を活用する。

書く(描く)・書きとる

気持ちを表現する

<困難さ>

文章で表現することが難しい

<指導の工夫の意図>

表現したい内容をイメージしたり書く順番を決めたりすることができるように

<手立て>

① 多様な表現方法を整理する

- ・ 図(表やウェイビングマップ等)やイラストで表現してから文章にする。



ポイント!

イラストを動かしながら場面を想像することで、事柄の順序に沿って書くことを、より意識することができる。

② 言葉や短文をメモしたカードを活用する

- ・ メモした短冊カードの順番を並び替えながら文章にする。



- ・ 「伝えたい事」「説明」の2文構成、「伝えたい事」「理由」「例」「まとめ」の4文構成等のフォーマットを活用する。

書く(描く)・書きとる

<困難さ>

鉛筆を正しく持って書くことが難しい

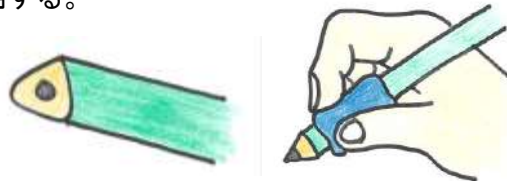
<指導の工夫の意図>

鉛筆を正しく持ったり、それぞれに適した書き方を選んだりすることができるように

<手立て>

① 正しく持つことで鉛筆が動きやすくなることに気付くようにする

- ・ 市販の補助具などを活用する。
- ・ 線のなぞりをする。
- ・ 塗り絵を活用する。



ポイント!

正しく鉛筆を持つことで、「書きやすい」「上手に鉛筆を動かすことができる」と実感できることが重要である。

② ICT機器を活用して文章を書く

- ・ ワードプロソフトやプレゼンソフトを活用する。

③ 書く文字の量を減らす


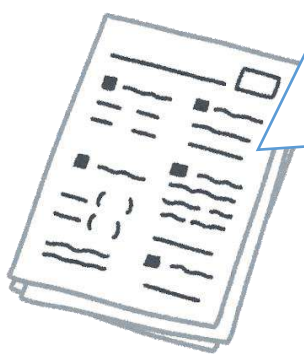
- ・ ノートに書き記す事柄の軽重が分かるように板書の文字の色を変える。
- ・ 授業終了後に板書を撮影する。
- ・ ワークシートを活用する。(板書と形式をそろえ、内容の軽重に留意して作成し、個別に対応する。)

算数／数学

イメージする・想像する

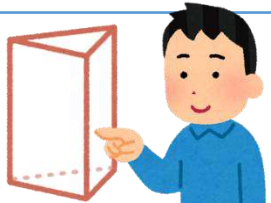
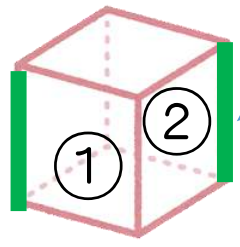
<困難さ>	<指導の工夫の意図>
計算手順をイメージできず 立式することが難しい	計算の順序や 数字を書く場所が分かりやすいように



<手立て>	
<p>① 視覚的に手順を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公式のカードや手順表を活用する  <p>ポイント！ 四則計算の順序や（ ）の特性、公式の特性などをカード等で視覚的に示す。計算する順序を①、②等と示すことで計算の手順を捉えることができるようになる。</p>	<p>② 手順が示されたワークシートを活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算手順が分かるようなワークシートを用意する。  <p>ポイント！ 計算手順が示され、問題文に書かれた数字を記入することで手順が理解しやすくなる。ワークシート内のヒントを徐々に減らしていくことで計算手順の理解を深めることができる。</p>

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
空間図形を立体的にイメージできず 性質や特徴を理解することが難しい	空間における直線や平面の位置関係を イメージできるように





<手立て>	
<p>① 立体模型で特徴のある部分に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥行や角など平面では捉えにくいいため、実際に模型などを提示し、特徴のある部分に触れる。  <p>ポイント！ 直接触れることで立体の形を捉えることができる。見る角度によって見え方が異なることを理解することができる。</p>	<p>② 平行な辺や向かい合う面に色などをつけて見比べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立体で示された図形の辺に色を付けたり、面に数字を付けたりする。  <p>ポイント！ 記号や場所を示す言葉での指示では難しいと考えられるので、色を付け、視覚的に示して見比べることで空間図形の性質が捉えやすくなる。</p>

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
「商」や「等しい」等の言葉の理解が難しい	言葉の意味について具体的なイメージをもてるように

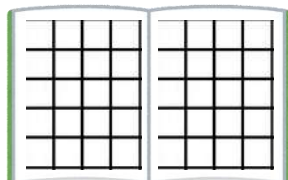
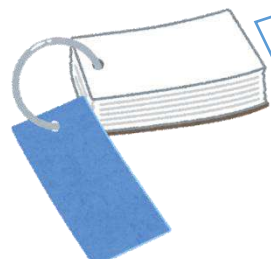
<手立て>

<p>① 本人の分かりやすい言葉に置き換える</p>	<p>② 実際に具体物を操作することで、言葉の意味を実感できるようにする</p>
<p>・ 普段、生活で活用している言葉を使う。</p>  <p>ポイント！ 聞き慣れない言葉の概念形成は難しいことが考えられるので、「等しい」は「おなじ」、「商」は「分ける、分けられる数」など生活で活用している言葉を使うことで取り組みやすくなる。</p>	<p>・ 具体物を操作することで「商」や「分数」などの言葉の意味を実感することができる。</p> <p>ポイント！ 文章題を読んで立式したり、答えをイメージしたりすることが苦手であると考えられる。身近なものを実際に人数で分けたり、切ったりすることでイメージしやすくなる。</p> 

書く・書きとる

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
筆算式では位を揃えて書くことが苦手で正しく計算することが難しい	計算の順序や数字を書く場所が分かりやすくなるように

<手立て>

<p>① マス目のあるノートを使用する</p>	<p>② 筆算の順序を数字と枠で図示したカードを活用する</p>
<p>・ マス目のあるノートを使い、計算の順序や位取りを確認しながら計算に取り組むようにする。</p> <p>ポイント！ マス目の無い紙で問題を解くと順序が分かりにくく、筆算等の位取りが難しい。マス目のあるノートを使用することで計算の順序や位取りの理解を深めることができる。</p> 	<p>・ 立式や計算の順序のポイントが書かれた手順カードを活用する。</p> <p>ポイント！ 計算の順序が分からない場合には、立式や計算の順序のポイントが書かれたカードを提示する。自分で確認しながら問題を解くことができ、計算のルールなどの理解を深めることができる。</p> 

理科

道具を操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
危険を伴う学習活動において自ら危険に気付くことが難しい	危険なことを知り安全に実験を行えるように

<手立て>

① 教師が確実に様子を把握できる場所で活動できるようにする

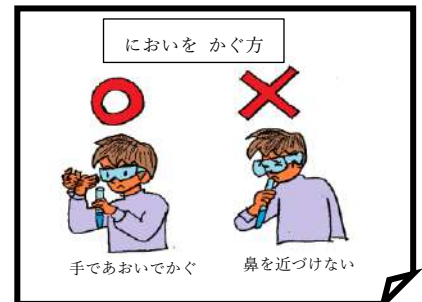


ポイント!

教師が声を掛けやすく、視覚に入る位置に座席を設定する。

② 薬品の扱い方について、危険な薬品の種類や何をすると危険なのかを事前に知らせる

- ・ 燃焼実験や薬品を使う実験、先のとがったものを扱う実験などでは、図や写真で注意すべき点を書き表したプリントを用意し、机上に掲示しておく。
- ・ 「危険」「注意」など分かりやすく薬品に表示する。
- ・ 正しい扱い方を○、間違った扱い方を×で示した表にまとめて掲示する。



<困難さ>	<指導の工夫の意図>
実験の結果を予想することが難しい	実験の結果を具体的にイメージできるように

<手立て>

視覚からイメージをもちやすくする

- ・ 予想される結果を写真やイラストで数パターン用意し、イメージできるようにする。



見る・観察する

<困難さ>

自然の事物・現象を観察することが難しい

<指導の工夫の意図>

視覚的な手立てを用意し
観察に取り組みやすいように

<手立て>

観察するポイントを示したり、ICT教材を活用したりする

- ・観察ポイントを示したチェックシートを準備して、観察を終えた項目をチェックするようにする。
- ・観察するポイントを絞り、集中力が低下しないようにする。
- ・タブレット端末等を使い、写真を自由に拡大したり角度を変えたりして観察できるようにする。
- ・タブレット端末等で撮影して動画を活用し、一時停止をしながら観察できるようにする。

	観察すること	観察したら○をつけます
1	咲いている場所	○
2	場所の日当たり	○
3	花の色	
4	花の大きさ	
5	葉の形	
6	



<困難さ>

リトマス紙やBTB溶液の色の変化を
認識することが難しい

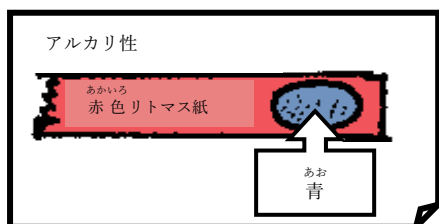
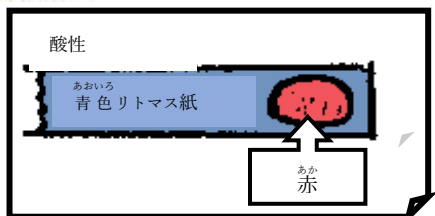
<指導の工夫の意図>

リトマス紙やBTB溶液の色の変化が
より分かりやすいように

<手立て>

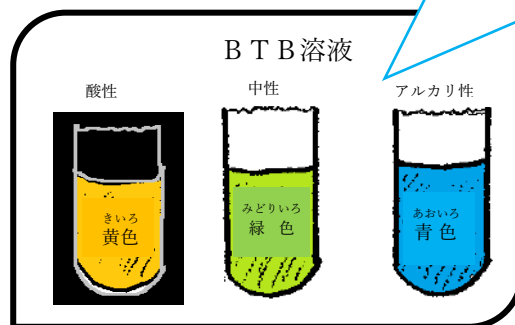
色彩を視覚で認識しづらい試薬の変化では、文字を補足して認識できるようにする

- ・色の部分に文字を補足した図や写真カードを提示する。
- ・色の变化を捉えやすい背景を用意する。



ポイント！

液体の色や児童生徒の見え方（本人と確認）に
応じて、捉えやすい背景色を用意する。



見通しをもつ

<困難さ> 実験の手順や方法が分からず 学習活動に参加することが難しい	<指導の工夫の意図> 実験の手順や方法が分かり 見通しがもてるように
--	---

<手立て>

<p>① 実験の目的を明示する</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の目的を明示したプリントを配付し、教師と一緒に確認する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p><目的>葉に日光が当たると、でんぷんができるのか？</p> <p><方法>○日光に当てた葉と、日光に当てない葉を比べる ○でんぷんができていないか、ヨウ素液で調べる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>日光に当てた葉</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>日光に当てない葉</p> </div> </div> </div>	<p>② 活動の流れや実験の手順が分かるプリントを手元に置く</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の方法や手順を示した文章や写真、イラスト等を掲示する。 プレゼンソフトを活用し、今、取り組むことをスライドで示す。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>ポイント! 手順表は一枚で全体を示す方法と一枚に一つの手順を示す方法がある。児童生徒の実態に応じて用意すると良い。</p> </div>
--	---

<困難さ> 器具の片付けを自主的に行うことが難しい	<指導の工夫の意図> 器具の置き場所を知り 自分から片付けられるように
---	--

<手立て>

実験器具の置き場所を分かりやすくする	
<ul style="list-style-type: none"> 道具の置き方が分かるように写真やイラスト等で示す。 事前に（片付けの）役割分担をしておく。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>ポイント! ラベルには、器具の名称だけでなく、写真やイラストを付けると分かりやすい。</p> </div>	

表現する

<困難さ> 項目や数値に注目して 実験結果をまとめることが難しい	<指導の工夫の意図> 項目ごとに実験結果を まとめることができるように
---	--

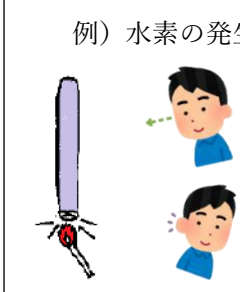

<手立て>

実験結果を視覚的に示す											
<ul style="list-style-type: none"> 表にまとめた数値を、棒グラフ等のグラフにすることで視覚的に捉えることができるようにする。 表計算ソフトを活用してグラフ等で表現する。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>ポイント! 数値とグラフを同じ色で対応させると、より捉えやすくなる。</p> </div>	<p style="text-align: center;">温度と溶ける容量</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>温度</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>溶ける容量</td> <td>5</td> <td>13</td> <td>24</td> <td>39</td> </tr> </table> <div style="text-align: right;"> <p style="font-size: small;">水温と水100gに溶ける質量</p> </div>	温度	0	10	20	30	溶ける容量	5	13	24	39
温度	0	10	20	30							
溶ける容量	5	13	24	39							

感覚が過敏である

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
水素の燃焼や記録タイマーの使用等、音を伴う実験に取り組むことが難しい	実験で発生する音について知り実験の操作やノートの記述に集中できるように

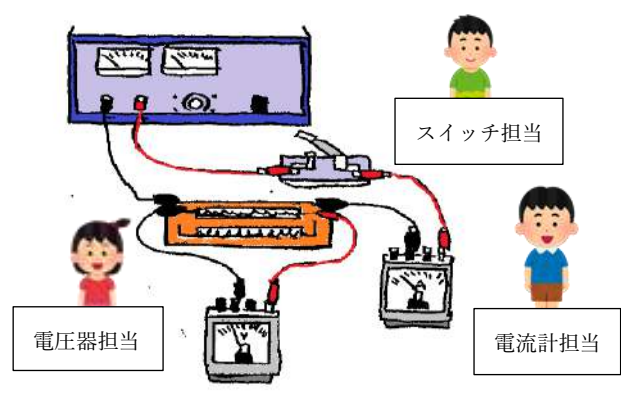
<手立て>

<p>① 事前に、発生する音がどのような音なのかを本人に伝える</p>	<p>② 本人の耳に入る音を物理的に軽減する</p>
<p>・事前に、実験で音が鳴る部分を個別に見せ、予めどのような音が出るかを体験しておく。</p> <div data-bbox="111 667 518 1019"> <p>例) 水素の発生と確認</p>  <p>安心安全</p> </div> <div data-bbox="526 667 766 974"> <p>ポイント! 最初から大きな音ではなく始めは小さな音で。徐々に大きな音に慣れるようにすることも大切。</p> </div>	<p>・イヤーマフ（周囲からも目立たない）などの使用を促す。</p> <div data-bbox="813 667 1468 896">  </div> <div data-bbox="813 907 1468 1097"> <p>ポイント! 耳栓やノイズキャンセル機能のあるヘッドホン等もある。本人の感覚や周囲の視線に対する本人や保護者の気持ちを確認して使用する。</p> </div>

道具を操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
応用実験や応用工作で、一人で道具の操作をしたり実験をしたりすることが難しい	操作及び工作等の技能面での補助がしやすいように

<手立て>

<p>ペアもしくは少人数の設定により協力や教え合いができる体制を作る</p>	
<p>・グループの人数設定の工夫をし、ペアやグループで分担しながら一つの実験ができるようにする。 ・相手がいなければ成り立たない実験場面の設定（協力や話し合いが必然的に成立する）等の配慮をする。</p>	
<div data-bbox="574 1691 1197 2083">  <p>電圧器担当</p> <p>スイッチ担当</p> <p>電流計担当</p> </div>	

社会

イメージする・想像する

<困難さ>

学習課題の解決に必要な資料を自分で探して活用することが難しい

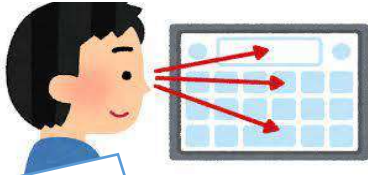
<指導の工夫の意図>

社会的事象等を読み取りやすいように

<手立て>

① 実物、動画、写真など視覚的に示す

・実物を示したり、動画や画像を通して課題を説明したりする。



ポイント！

文字や漢字から社会的事象等をイメージすることが難しい場合には、実物を示したり、動画を通して課題を説明したりすることで学習上の課題に取り組みやすくすることができる。

② フォーマットを活用する

・ワークシートを通じて学習課題に気づき、主体的に取り組めるようにする。



ポイント！

課題に対する解答をまとめる際には「伝えたいこと」と「説明」の2段階構成や「伝えたいこと」「理由」「例」「まとめ」の4段階構成等のフォーマットのワークシートを活用する。

<困難さ>

取り扱う社会的事象のイメージがわからず言葉の意味を理解することが難しい

<指導の工夫の意図>

社会的事象の意味を理解しやすいように

<手立て>

① 社会の営みと身近な生活のつながりを意識できるような実際的な体験を取り入れる

・身近な話題を用いて実際的な体験を取り入れる。

ポイント！

国会や裁判などの社会的な事象等の理解が難しい場合には、体験を取り入れることでイメージをもつことができる。様々な立場を体験することで社会の成り立ちを考えることにもつながる。



② 理解できる言葉に置き換えて視覚的に提示する

・既習の内容を基に説明を行い、同時にその語句をイメージできるようにする。



ポイント！

新出の語句の理解が難しい場合には、既習の内容を基に説明を行い、同時にその語句をイメージできるような写真等を示すことで理解を深めることができる。

読む・読み取る

<困難さ>

地図等の資料から必要な情報を見つけ出すことや、読み取ることが難しい

<指導の工夫の意図>

情報を視覚的に整理できるように

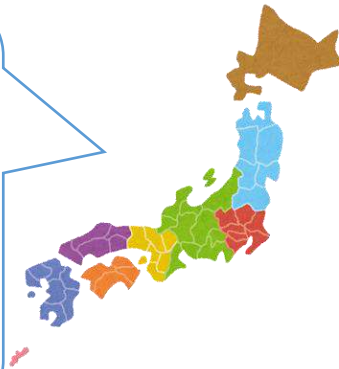
<手立て>

① 掲載されている情報を精選化する

・必要な情報のみを精選して伝える。

ポイント！

情報量が多いと必要な情報を見つけることが難しいため、色分けしたり、必要のない情報を省いたりしながら情報を精選することで情報を読み取りやすくする。



② ICT機器等を活用して必要な情報を強調する

・タブレット等のICT機器を活用し、必要な情報だけを強調する。

ポイント！

タブレット等を活用し、必要な情報だけを拡大して強調したり、二つの情報を同時に見比べたりすることで理解を深めることができる。



見通しをもつ

<困難さ>

問題解決の方法を考えることが難しい

<指導の工夫の意図>

問題となっている事象を整理できるように

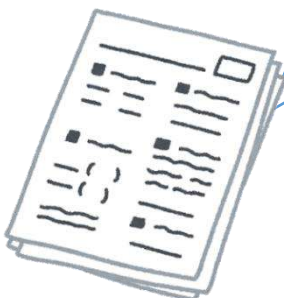
<手立て>

① ワークシートを用いて事象を整理する

・ワークシートを用意し、考えを導き出せるような順序を示す

ポイント！

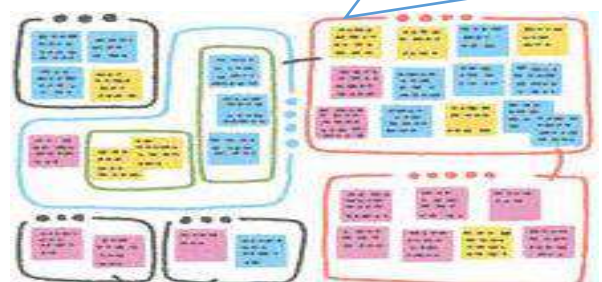
事実と自分の考えを整理して考えることが難しい場合には、ワークシートを活用し、事象を整理できるようにすることで主体的に取り組むことができる。



② 事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする

ポイント！

グループ学習では、KJ法を用いてカードに書き込んで情報を出し合って情報を整理する。他者の意見も参考にしながら解決方法を見出すことで理解を深めることができる。



生活

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
学習の振り返りの場面において学習内容を想起することが難しい	体験した事・学習したこと等を思い出すことができるように

<手立て>

学習経過が分かる文章や写真、イラスト等を活用する

- ・学習経過の分かる掲示物やイラスト、写真等を教室内に掲示しておく。
- ・学習の振り返り場面で、これまでの学習の様子を撮影した動画を見るようにする。
- ・写真やイラストは黒板に貼るとともに、縮小して机上で並び替えられるようにする。

ポイント！

黒板に書かれた文字だと、分かりにくかったり、注目しにくかったりする児童生徒もいる。その場合は、手元で操作できる方が、より分かりやすい。



ポイント！

絵や写真・動画等、視覚的教材を用いると想起しやすくする。



ポイント！

場面や意見等によって、色分けすると、より分かりやすい。



- ・学習過程での発言を短冊や付箋に記入して、まとめに活用する。

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
体験学習の活動の見通しをもつことが難しく参加することに不安がある	体験学習の流れや訪問場所、活動内容等、学習活動の見通しをもつことができるように

<手立て>

写真や動画等の資料を提示して、イメージをもてるようにする

- ・事前に訪問予定地の写真や動画を確認する。
- ・予定時刻や活動内容を記したスケジュール表を作成し、その場所での活動の見通しがもてるようにする。

ポイント！

学習活動の代替を安易に行うことがないように留意する。



イメージする・想像する

書く・書きとる

<困難さ>

自分の経験を文章にしたり
考えをまとめたりすることが難しい

<指導の工夫の意図>

どのように考えればよいのか、
具体的なイメージを想起できるように

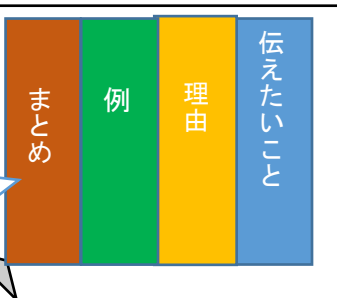
<手立て>

考える項目や順序を示したプリントを準備したり、事前に考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章に書くようにする

- ・「伝えたいこと」と「説明」の2段階構成や、「伝えたいこと」「理由」「例」「まとめ」の4段階構成等のフォーマットを活用する。

ポイント!

作文や文章を書くことに苦手意識ある児童生徒が、「フォーマットに沿って書いたら、簡単に文章にすることができた!」と、良いイメージをもち、次への学習意欲に繋がるようにする。



イメージする・想像する

指示を理解する

<困難さ>

言葉での説明や指示だけでは
安全に気を付けることが難しい

<指導の工夫の意図>

説明や指示の意味を理解し
なぜ危険なのかをイメージできるように

<手立て>

- ① 体験的な事前学習を行うなどの配慮をする。
- ② 具体物や写真、イラスト、映像等を活用したり、教師が児童の近くで演示したりして、説明する。

- ・事前に、安全に気を付けなければいけない場面の絵や写真を確認する。
- ・校外での活動の前に、写真や動画を活用しながら教室や廊下を道路に見立てて、道路の歩き方などについて事前に学習をする。
- ・事前に危険が予測される物の扱い方について、動画等で確認したり、教師と一緒に練習したりする。

ポイント!

絵や写真・動画等、視覚的教材を用いると具体的にイメージしやすい。



話す・聞く

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
自分の考えをまとめて発表することが難しい	発表することの負担を軽減できるように

<手立て>

① 絵カードやメモ、タブレット端末等、話し言葉を補うための手段を用意したり、教師が側で言葉を補ったりする

- ・前に出ることが難しい場合は、自席で発表したり、教師が側で言葉を補ったりする。
- ・聞き手に分かるように、絵カードに吹き出しや簡単なセリフを書き込んで発表できるようにする。
- ・タブレット端末やコミュニケーションボード等を活用して、話し言葉を補うようにする。

ポイント！

実態に合ったアプリケーションやコミュニケーションボードを活用する。



ポイント！

あらかじめ発表内容を書きしておくことで、本人も発表しやすく、聞き手にも伝わりやすくなる。



<困難さ>	<指導の工夫の意図>
声の大きさや速さなどを調整することが難しい	丁度よい声の大きさと速さがあることに気付くことができるように

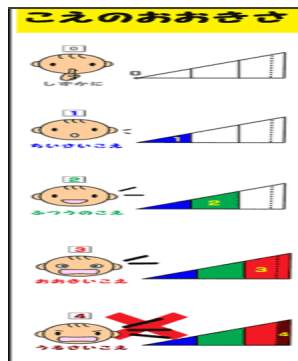
<手立て>

記録機器を活用する

- ・見学の様子やインタビュー、発表の様子等をビデオ撮影したり、録音したりする。

ポイント！

自分で丁度良い声の大きさに気付いたり、声の大きさや速さをコントロールしようと意識したりすることが大切である。



<困難さ>	<指導の工夫の意図>
長い時間集中し続けることが難しい	学習の流れや自分の取り組む内容が分かるように

<手立て>

① 刺激を整理する

- ・他のページを開かないようにする。
- ・刺激になるものを片付ける。

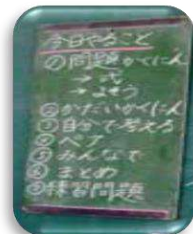


② 学習の手順を示す

- ・単元や本時の活動計画を掲示し活動のゴールを提示する。
- ・グループ活動用のシートを準備し役割分担や具体的な活動(いつまでに何をするのか)を書くようにする。また、シートを常に確認できるようにする。

ポイント！

簡潔に分かりやすい言葉や絵や写真等を示す。



状況を把握する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
学校生活に関係する人々や校舎の様子について理解することが難しい	教職員や地域の人々の存在に気付き、そうした人々の役割、特別教室等の位置や使い方を理解することができるように

<手立て>

① イラストや写真等、理解を助ける視覚的な資料を用意する

- ・写真を活用する。
- ・作成した関係図等を、年間を通して掲示する。

ポイント!

校舎配置図に、関係する教職員の写真と名前を書いて掲示すると、関連付けて覚えることができる。



② 教職員や学校生活を支える地域の人々と交流する機会を設ける

- ・見学で見つけたものを写真に撮り、学習活動に使う。
- ・学校探検、学区探検で出会った人々にインタビューをする機会を設ける。
- ・人の顔や働きの様子が分かる写真の入った関係図等を活用する。



道具を操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
みんなで使う物等を大切に扱うことが難しい	大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できるように

<手立て>

学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に伝える

- ・教科書巻末に掲載されている工作等をする際の手順や工夫に関するページを活用し、用具等の扱い方を確認する。
- ・道具を正しく安全に使っている児童を褒め、その児童をモデルとして、学級全体で正しく使おうとする意識を高めるとともに、正しく使用しなければならない理由を具体的に考える場面を設定する。
- ・道具、用具等の扱い方についての動画を見るようにする。
- ・作ったおもちゃ等で遊ぶ際は、遊び方や気を付ける点などを動画や写真で確認する。
- ・道具、用具等の片付け方を写真やイラスト等で具体的に示す。

ポイント!

写真や動画を活用して、具体的に視覚的に分かりやすいようにする

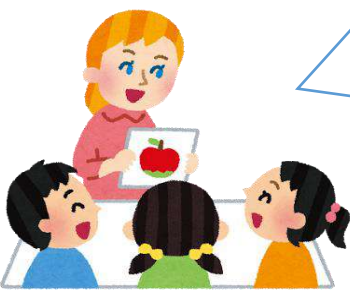



外国語

聞く(聴く)・聞き取る

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音声を聞き取ることが苦手で英単語を聞き分けることが難しい	聞き取る音声を予想しておけるように

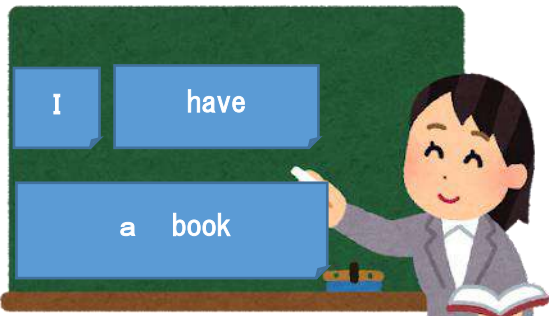
<手立て>

① 英単語や英文をイラストと共に提示する	② 英単語の読み方をカタカナで表記する
<p>・イラストや写真で、聞き取る内容を大まかに伝えておくことで、聞き取るべき内容をイメージできるようにする。</p>  <p>ポイント! イラストを示すことで聞き取る単語をイメージすることができ、音声の聞き取りを補助することができる。</p>	 <p>ポイント! 初めて聞く言葉に対して理解することが難しい場合には、カタカナで示すことで音声を文字から理解することにつながり、理解を深めることができる。</p>

読む・読み取る

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
英単語を1語ずつ捉えられず英文を読み取ることが難しい	単語のまとまりや文の構成を捉えやすくするように


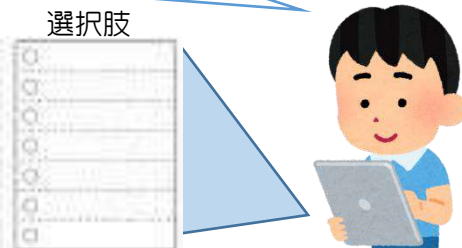
<手立て>

提示の仕方を工夫する	
<p>・それぞれの語句をカードで分けたり、色分けしたりすることで文の構成を捉えやすくする。</p>  <p>ポイント! 一文で示すとそれぞれの語句への意識付けが難しいので、それぞれの語句をカードで分ける。また、色分けしたりすることも有効で、視覚的に文の構成を捉えやすくなる。</p>	

見通しをもつ

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
英文での質問に対する解答を自分で考えることが難しい	解答する手掛かりをもてるように


<手立て>

<p>① 質問を平易な語や表現に言い換える</p> <p>・理解できる語句や表現に言い換えることで、質問をイメージして解答について考えることができるようになる。</p> <div data-bbox="411 779 767 1061" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント!</p> <p>質問されている事柄がわからない場合には、簡単な言葉で言い換えることで、質問をイメージすることができるようになる。</p> </div> 	<p>② 解答する際、ヒントとなる情報を提示し、選択することができるようにする</p> <p>・解答のヒントになるような選択肢を用意して、選択することで解答することができるようにする。</p> <div data-bbox="821 683 1476 862" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント!</p> <p>質問は理解しているが、解答する内容やその語句がイメージできない場合には、選択肢を用意することで自信をもって解答することができる。</p> </div> <p style="text-align: center;">選択肢</p> 
---	---

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
外国語と日本語の語順の違いを理解することが難しい	外国語と日本語の語順に違いがあることに気付くように

<手立て>

カードなどを活用し、順序の違いを視覚的に示す	
<p>・文を語（句）単位で分解し、それぞれの日本語の意味を書いたカードを作成し語（句）の下に対応する日本のカードを並べるようにする。</p> <div data-bbox="119 1736 686 2072" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント!</p> <p>外国語で書かれた文章と日本語で書かれた文章をそれぞれ提示し、文章中の語句を分解し、意味していることを色分けすることで語順の理解を深めることができる。主語や述語など語句の持つ文章中の役割を示すことで、外国語の文章の構成について考えることができる。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	

図画工作／美術

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
自分の表現の意図に対し 材料の使い方をイメージすることが難しい	材料の特徴、形や色の違いに気付き 具体的に想像できるように

<手立て>

① 材料の特徴や違いに気付くことができるようにする

- ・特徴が分かりやすいものを例示し、材料や用具を用意し、提示する種類や数を絞る



ポイント①!

材料の種類を限定することで、材料を切ったり曲げたりしたときの形や長さ、太さなどに気付きやすくする。直接、材料に触れて、比較することでイメージしやすくなる。

ポイント②!

「○、△、□」などの形、柔らかい、硬いなどの感触等、違いがはっきりと分かるものを準備し、比較することで特徴に気付きやすくなる。

<手立て>

② 材料の加工の仕方を視覚的に示す

- ・使用する材料や用具の用途などを図や写真・動画で示し、その中から選択できるようにする。



ポイント!

全体に示した方がよいものと、一部の児童生徒のみに示した方がよいものを見極め、ヒントコーナーを準備し、必要になった児童生徒がいつでも見られるようにするなどの工夫をする。

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
表現したいことを見つけることが難しい	材料の特徴や形、色等の違いに気づき表現方法のイメージをもつことができるように

<手立て>

① 材料に触れ体の感覚を通して実感の伴う活動を設定する

- ・ 材料を、並べる、つるす、切る、形を変えるなど、材料に直接触れる活動を行う。
- ・ 絵の具と水と筆など、材料・用具を使って自由に描く活動を取り入れる。



ポイント！

直接、指に絵の具をつけて混ぜたり描いたりするなどの活動を行うことで、発想を広げるきっかけとなる。

見る・観察する

指示を理解する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
見えにくさから制作の流れや道具の使い方を理解することが難しい	聴覚情報を活用し、制作の流れや道具の使い方が分かるように

<手立て>

視覚的な情報を減らし言葉での伝え方を工夫する

- ・ 使い方を伝えるときには、擬音を使用して身近なものに例えるなど、伝え方を工夫する。



ポイント！

「カッターはカチッ、スーッ」など、擬音を取り入れた伝え方や、「ローラーは行きが車、帰りは飛行機」等と説明すると、動かし方をイメージしやすくなる。

聞く・聞き取る

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
聞こえにくさから制作の流れや道具の使い方の説明を理解することが難しい	視覚情報を活用し、制作の流れや道具の使い方が分かるように

<手立て>

- ① 制作の流れや道具の使い方を写真やイラストで示し、いつでも確認できるように掲示する



ポイント①!

下書き、板に写す、糸のこぎりで切り抜く、組み立てる等、制作の流れを写真やイラスト、短文で壁面に掲示する。

ポイント②!

カッターの使い方について教師が模範を示しながら指導した後、そのポイントを写真やイラスト等でまとめたものを掲示する。

ポイント③!

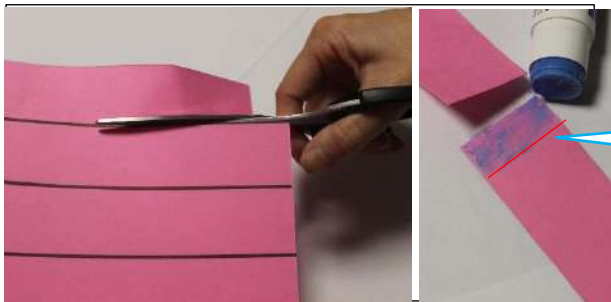
特に安全面に関する内容は常に意識できるように文字等で示す。

道具を操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
はさみやのりを適切に扱うことが難しい	使いやすい道具を使用し、はさみで切ったり糊で貼ったりするところが分かりやすいように

<手立て>

- 補助線や目印を加えたり、使いやすい道具を準備し活用したりする



ポイント①!

切る線がはさみの刃先で隠れてしまわないよう、油性ペン等で太くする。

ポイント②!

のりをつける部分分かるように鉛筆等で印をつけておく。

ポイント③!

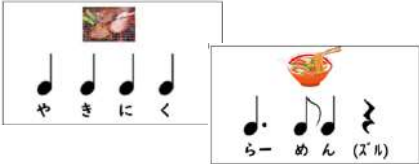

のりを塗った場所が分かるよう、色のついたのりを活用する。また、弱い力でも扱える特殊なはさみや補助具を活用することも有効である。

音楽

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
旋律やリズムをイメージして正しく演奏することが難しい	音や演奏手順がイメージできるように




<手立て>		
<p>① 旋律やリズムをイメージしやすくする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを、馴染みのある言葉に置き換えて伝え、一緒に確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の動きをジェスチャーで表現して伝え、一緒に確認する。 ・旋律やリズムを図示して提示し、視覚的に伝える。 ・モデルとなる友達とグループで一緒に練習をするようにする。 	<p>② 演奏の手順をイメージしやすくする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏したり止めたりするタイミングに合わせて合図をする。 ・楽器や鍵盤に番号シール等を貼り、演奏する順序が分かるようにする。 ・楽器を演奏する順番に、音の長さに応じた間隔で並べる。 ・手本となる演奏の動画や、演奏手順を示したアニメーションを、電子黒板やタブレット端末等で再生して伝える。必要に応じて、スロー再生や分割再生をする。 	<p>③ 本人に合った演奏パートを設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不協和音になりにくい音や、シンプルなリズムのパートを設定する。 ・即興的な演奏パートを設定した合奏を構成し、演奏の自由度を高める。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント! うまくできない経験を重ねると、表現することを恐れるようになってしまうことがある。 成功体験を重ねて、「表現すること」に意欲的に取り組めるようにする。</p> </div>

感覚が過敏である

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
苦手な音があり学習に集中することが難しい	苦手な音刺激を緩和できるように



<手立て>		
<p>① 音から距離をとる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーカーから離れた座席にする。  <ul style="list-style-type: none"> ・合奏の際には、苦手な楽器から離れた位置で演奏する。 	<p>② 音量を緩和する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてイヤーマフや耳栓、デジタル耳栓等を着用する。 	<p>③ 室内の音環境を整える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机や椅子の脚にテニスボール等を付ける。 ・スピーカーやマイク等の電子機器のノイズを調整する。

見る

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音符の種類や高さ、音符記号等を見分けることが難しい	視覚的に情報を整理し、音符の種類や高さや音符記号の違いを見分けやすくするように


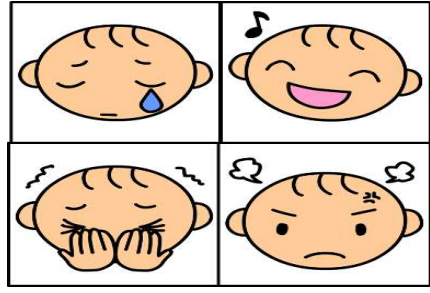
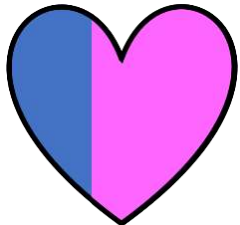
<手立て>

① 拡大する	② 見分けやすい方法で示す	③ 視覚的な環境を整える
<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を拡大印刷して提示する。 タブレット端末や電子黒板を用い、注目する箇所を拡大して提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 注目する記号に色を付けたり、色枠を付けたりする。 五線譜の代わりに、フィギュアノート等の、色や形で音を表した楽譜を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内の掲示物や板書を整理し、注目する楽譜等を焦点化する。 明るさや光の当たり方に配慮し、手元や板書が見やすい座席にする。

気持ちを表現する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音楽のイメージや感情を言語化して表現することが難しい	ヒントをもとに言語で表現できるように、言語以外の手段で表現できるように



<手立て>

① 言語のヒントを与える	② 言語以外の手段で表現できるようにする
<ul style="list-style-type: none"> 様々な形容詞や、「音楽の感じを表す言葉」をまとめたヒントカードを掲示したり手元に置いたりする。 その音楽の特徴的な「音楽を形作っている要素」を視覚化して伝え、特徴的なフレーズに限定して表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感情を表す表情のイラストを選択して表現できるようにする。 「気持ちの尺度」「雰囲気メーター」等の教材を用意し、気持ちや雰囲気の動き（移り変わり）を示すことで表現できるようにする。 「好きだと思ったところ」「怖い感じがしたところ」等の着眼点を提示し、音楽のどの部分でそう感じたかを表現できるようにする。  

体の動きを調整する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音色や音量に適した力加減や息遣いを調整して演奏することが難しい	音色や音量に適した力加減や息遣いの調整の仕方が具体的に分かるように



<手立て>			
<p>① 分かりやすく比較して伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 音色や音量の違いを極端に表現して演奏してみせ、違いに気付くようにする。 音色や音量の違いを極端に表現するように促し、体の使い方の違いを、体感できるようにする。 	<p>② イメージを具体化して伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ろうそくの火を吹き消す」「シャボン玉をふくらませる」等、息遣いのイメージを伝え、一緒に確認する。 	<p>③ 調整方法を具体的に伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕や指等を動かす幅や方向を具体的に伝えるようにする。 吹き戻しや吹きコマ、水に浮かべた船、ストローと水等を使い、息で操作する体験を通して息遣いを体感できるようにする。 	<p>④ 楽器を調整する</p> <ul style="list-style-type: none"> 打楽器の一部に布を付ける等の方法で、音量を調節する。 

操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
複雑な動作を要する演奏をすることが難しい	動さの補助、楽器の工夫等により本人に適した動作で取り組めるように





<手立て>		
<p>① 本人に合った動作にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器を固定し、手で支えなくても演奏できるようにする。また、動きやすい姿勢で演奏できるようにする。 ハンドベルや卓上ベル、トーンチャイム等を、音階の順番でなく、演奏する順番に並べる。 一つの音しか出ない楽器を複数並べて鍵盤の間隔を広げ、演奏しやすくする。(例：鉄琴→音積み木)  	<p>② 動作の補助をしたり手がかりを与えたりする</p> <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの穴に、穴のあいた立体的なシールを貼る。 * 魚の目パッド等 太鼓の面のバチを当てる部位に印を付ける。 演奏に不要な鍵盤をシートで隠す。 	<p>③ 楽器を工夫して正しい音が出るようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 木琴や鉄琴の音板を外し、演奏に必要な音だけを並べる。 リコーダーの穴をテープで塞ぎ、指で押さえない場合でも決まった音が出るようにする。 不協和音になりにくい音や、即興的なリズムのパートを設定し、演奏の自由度を高めるようにする。 

体育／保健体育

体の動きを調整する



<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音や相手に合わせて身体を動かすことが難しい	バランス感覚を高めることができるように

<手立て>

① 線に沿って歩く	② 補強運動で片足立ちに取り組む
<p>・線に沿って歩く練習をすることで、動きの調整力を向上させることができる。</p>  <p>ポイント！ 転倒の原因の1つとして、視線の先に意識が向くことが考えられる。意識を身体に向けることが大切。</p>	<p>・片足立ちの運動を通して、身体の傾きに気付いたり、調整したりすることができる。</p>  <p>ポイント！ 体幹を意識することもでき、バランス感覚を高めることが期待できる。</p>

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
複雑な動きをすることが難しい	動きを細分化して理解できるように



<手立て>

① 遊びの中で複雑な動きに取り組む	② 写真や動画を用いて手本と自己の動きを比較する
<p>・登る、掴む、くぐるなどの動きを意識的に取り入れ、楽しみながら取り組むようにする。</p>  <p>ポイント！ 遊具で遊ぶときには自然と複雑な動きが必要となり、体育的な動きにつながることを期待できる。</p>	<p>・タブレット端末を使って自分の動きを確認して、手本との違いを確認する。 ・指導者は違いについて比較できるように提示する。</p>  <p>ポイント！ 意識する部位を視覚的に確認ができるようにする。 継続的に画像や動画を撮影することで動きの変容を確認することにもなる。</p>

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
まひ等により身体を動かすことが難しい	本人ができる動きを生かし 少しでも活動に取り組めるように





<手立て>

① 用具やルールを変更する	② 準備運動や補強運動に取り組み機能の向上を図る
<p>・本人ができる動きを生かして、仲間と積極的に活動できるように用具やルールを調整する。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 180px;"> <p>ポイント! コートの大さを小さくして動く範囲を狭くしたり、ボールを大きくして扱いやすくしたりすることでも参加しやすくなる。</p> </div> </div>	<p>・個別に指導する時間を設け機能が改善するための学習に取り組む。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 200px;"> <p>ポイント! 機能が改善するための学習に取り組むことで、動きの制限を緩和することができる。身近なものを活用し、一人でできることもあるので、意識して取り組めるように声をかけることが大切である。また、家庭に協力を得ることも重要である。</p> </div> </div>

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
力を調整することが難しい	力加減の調整ができるように





<手立て>

① 力の入れ方を数値化する	② 動画を用いて視覚化する
<p>・自身の最大の力を10、脱力を0と数値化し、適切な力加減を数値で表して伝える。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 180px;"> <p>ポイント! 強すぎる場合には、「8から5にしよう」などと数値で伝えることで理解しやすくなる。</p> </div> </div>	<p>・自身の動きと適切な力加減で取組んでいる仲間の動きについて動画を用いて比較する。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 200px; margin-right: 20px;"> <p>ポイント! 仲間の動きと見比べることで、適切な動きにつながる。 定期的に動画で確認し、自分でも変容を理解できるようにすると主体的に取り組むことができる。</p> </div>  </div>

体の動きを調整する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
タイミングを合わせるのが難しい	言語情報の活用、適切な補助により「タイミングが合った」という経験ができるように

<手立て>

<p>① 言語情報に置き換える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイミングを合わせるができるように、カウントしたり動かす方向を言葉で示したりして伝える。  <p>ポイント! できるだけ短い言葉で伝えると理解しやすい。「1, 2の3」や「右」、「左」など動作と言葉が繋がるようにする。</p>	<p>② 動かす体の部位に触れて意識できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が直接、児童生徒の体に触れることで、動かすべき部位やタイミングを理解できるようにする。  <p>ポイント! 動作によっては力を入れたり、緩めたりすることがあるので、その関連する部位に触れて力を入れたり、緩めたりする感覚を確認するようにする。</p>
---	--

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
他者の身体に触れることが苦手で身体接触を伴う活動に不安を感じてしまう	身体接触に対する不安を取り除くことができるように



<手立て>

<p>① ロープ等を用いて距離を一定に保つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロープやフラフープなどを活用し、一定の距離感を保ちながら学習に取り組むようにする。  <p>ポイント①! 直接触れ合わないため、安心して活動に取り組むことができる。</p> <p>ポイント②! タオル等を使うことで、ペアでストレッチすることもできる。</p>	<p>② 学習内容を調整する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に折り合いをつけることができるように代替案等を提示して、本人と一緒に調整する。  <p>ポイント! 活動によっては、手袋を使用したり、担任とペアを組んだりすることなども想定される。</p>
--	---

状況を把握する

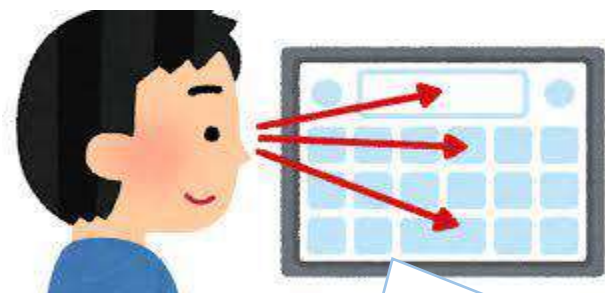

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
初めての活動への対応が難しい	初めての活動に対する心理面の不安を取り除くことができるように



<手立て>	
<p>① 挑戦することを認め合う雰囲気を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間同士の関係の中で不安を取り除くことができるようにする。 <p>ポイント! 失敗を肯定的に捉えることができるよう、挑戦したことや努力してきたことを評価し合える雰囲気を作ることで、心理面の負担を軽減する。</p> 	<p>② 場面設定を簡略化する</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験したことや見通しがもてる活動を取り入れることで、安心して参加することができる。 <p>ポイント! ① ルールや学習活動を簡略化し、本人にとって分かりやすい活動にすることで、心理面の負担が軽減される。</p>  <p>ポイント! ② 想定される状況の変化やトラブルについては、見通しがもてるよう、あらかじめ情報を伝達していくことも大切。</p>

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
慣れない環境での学習が難しい	慣れない環境に対する心理的な不安を取り除くことができるように





<手立て>	
<p>① 見通しがもてるように情報を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> 慣れない環境での学習が予想される前には、動画や写真を用いてその環境や活動内容を示す。  <p>ポイント! プール、校外での活動や発表会など、内容を視覚的に伝え不安を取り除くようにする。</p>	<p>② 段階的に環境に慣れる</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人に学習内容を提示し、できそうなところから段階的に取組み環境に慣れていくようにする。 はじめから、全ての学習活動に参加することは難しいので少しずつ活動量を増やしていくようにする。  <p>ポイント! 参加する活動を自分で決めることで、安心して学習活動に参加することができる。</p>

見通しをもつ

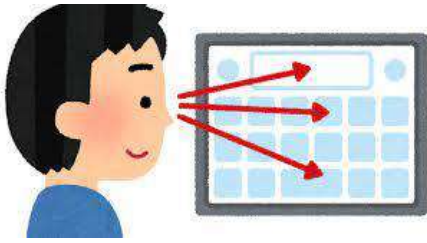

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
勝ち負けを受け入れることが難しい	勝敗に対する対応方法を理解できるように



<手立て>	
負けた時の振る舞いについて学習する	
<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて話を聞くことができるように、勝負の前に「勝つこともあるが、負けることもある」ということを説明する。 ・負けた場合は、頑張ったことを認め合うことや、次に勝つために必要なことを話し合うことが大切であることなど、どのような行動が適切であるか、一緒に確認するようにする。 	
 <p>ポイント! 「勝った時は相手を励まそう」等、前向きな言葉をかけることで、本人の感情の調整につながる。</p>	 <p>ポイント! 全力で取り組むことが大切であることや、次の勝負があるということを伝えることも必要。</p>

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
保健の授業において活動内容に見通しをもつことができず、座って学習に参加することが難しい	学習の流れや内容、学習の終わりなどを知り学習活動に見通しがもてるように





<手立て>	
<p>① 手順や方法を視覚的に提示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に見通しがもてるよう、扱う内容について動画や写真を用いて提示する。 <p>ポイント! 学習内容が性教育や喫煙などの場合、児童生徒によっては拒否感を示すこともある。必要に応じて学習の目的についての情報を提示することも考えられる。</p> 	<p>② 個別で指導を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団での指導が難しい場合には、個別に学習を行う機会を設定する。 <p>ポイント! 集団での学習が難しい理由を考慮し、学習場所や時間等も調整することも大切である。</p> 

見る・観察する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
視覚障害により ボールの動きを見続けることが難しい	聴覚の活用等、視覚以外の方法で 状況把握ができるように



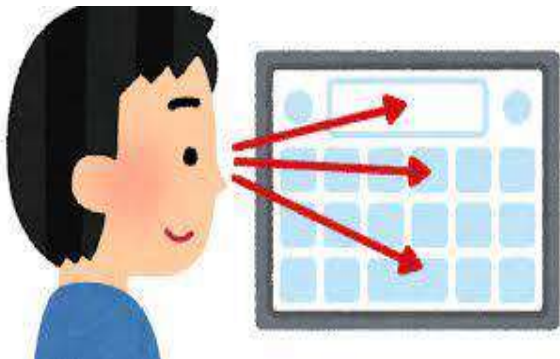
<手立て>	
<p>① 音が出る用具を使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚を使ってボールの位置を把握できるように、視覚障害者用の音の出るボールを使う。 <p>ポイント! ボール以外にもゴールに鈴をつけることで得点が入ったことを確認することもできる。</p> <p>ブラインドサッカー用のボール</p> 	<p>② 仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合形式の時には、相手やボールの位置、進む方向などについてチームメイトが情報を伝えるようにする。  <p>ポイント! どのような伝え方がわかりやすいのか、話し合う時間をとる。本人から伝えることが難しい場合は、指導者も一緒に話し合いに参加しアドバイスをする。</p>

聞く・聞き取る

指示を理解する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
授業の中での指示を聞き取れず 集団の動きに合わせることが難しい	視覚的な情報を活用し 自分の役割が分かるように



<手立て>	
準備や役割を視覚的に明示する	
・「どこで・何をすべきなのか」が分かるように場所や活動内容を文字・イラスト等で視覚的に示す。	
	<p>ポイント! 本人の役割について、目的や活動内容を視覚的に明示することで集団に合わせた動きを意識することができる。</p>

家庭／技術・家庭

道具を操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
周囲の状況に気をとられやすく道具を安全に扱うことが難しい	落ち着いて学習に参加し道具を安全に扱うことができるように

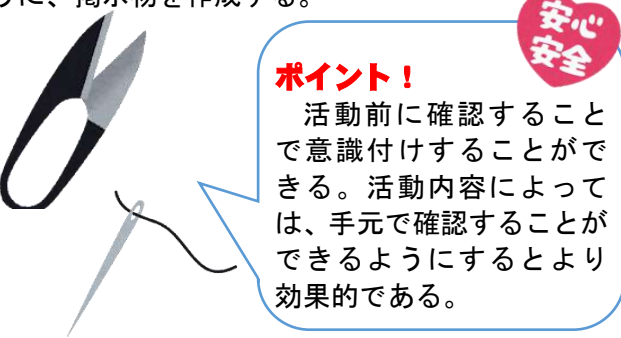

<手立て>

① 道具に印をつける	② ミシン等の速度を調整する
<p>・刃物などの道具を使用する際には、刃体を触らないように、持ち手に印をつけることで、持つ部分を意識することができる。</p>  <p>ポイント！ 正しい持ち方を習得することで安全に取り扱う事ができるようになる。</p>	<p>・ミシンの動きに集中できるようにミシンの速度を低速に調整し、針先への意識付けを図る。</p>  <p>ポイント①！ 速度を上げることで集中が増す場合もあるので適切な速度に調整する必要がある。</p> <p>ポイント②！ 布に視線を向けやすいよう、線の色や太さを変えて示すことも有効である。</p>

聞く・聞き取る

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
言葉での説明や指示だけでは安全に気を付けることが難しい	説明や指示の意味を理解しなぜ危険なのかをイメージできるように

<手立て>

① 約束事を掲示し、随時確認できるようにする	② 活動内容や手順等を、ICT機器を活用して明示する
<p>・安全面での約束事について、いつでも確認できるように、掲示物を作成する。</p>  <p>ポイント！ 活動前に確認することで意識付けすることができる。活動内容によっては、手元で確認することができるようになるとより効果的である。</p>	<p>・活動内容や操作方法、手順について、ICT機器等で視覚的に確認できるようにする。</p>  <p>ポイント！ 適切な道具の使用が事故を防ぐということを学習し、危険認知を高めることにつなげていくことができる。</p>

聞く・聞き取る

イメージする・想像する

<困難さ>

言葉や文字説明では活動内容を理解できず
活動のポイントをつかむことが難しい

<指導の工夫の意図>

視覚的情報を活用し
具体的に活動のポイントを確認できるように

<手立て>

写真や動画などを活用し、視覚的に提示する

- ・本人の視点で写真を撮って活動のポイントを示す。



ポイント①!

のこぎりの角度や体の向き、材料の固定方法など具体的なポイントについて、本人の視点で撮影し、示すことで理解が深まる。

ポイント②!

ミシン操作の際の手の位置や、調理実習の道具の使用方法等を本人の視点で示すことで、ポイントを確認することができる。



- ・道具の操作方法を動画や画像で示す。
- ・タブレット端末等を手元に置き動画や静止画で確認しながら活動する。

ポイント!

教師がモデルとなり、適切な操作方法を動画などで示すようにすることで、活動のイメージをつかむことができる。

初めての操作に対する心理的な不安も軽減でき、安心して活動に取り組むことが期待できる。



道徳

イメージする・想像する

読む・読み取る

<困難さ>

文字や文章による教材の理解が難しい

<指導の工夫の意図>

教材の内容が理解しやすくなるように

<手立て>

① 視覚に訴えるもので提示をする

・ 県教育委員会で作成した映像教材等を視聴する。

例：令和元年度道徳教育映像教材紹介

「こんにちは」でつながる世界（小学校）



千葉県教育委員会
(道徳教育)の
ホームページから、
検索できます。

ポイント！

映像を見る環境を整えること（テレビとの距離や目線の高さ、室内の明るさ等）で、見えやすさが変わる。映像を場面ごとに区切り、登場人物の心情を考えたり、どのような場面なのかを確認したりすることも有効である。



・ 教材を読む前に、登場人物の画像やイラスト等を提示する。



背景を暗色にするだけで、登場人物のカードが際立って見える。

ポイント！

提示する登場人物の画像を抜き出す。背景の配慮（無地や色合い等の工夫）をすることで、必要な情報に注目をしやすくなる。

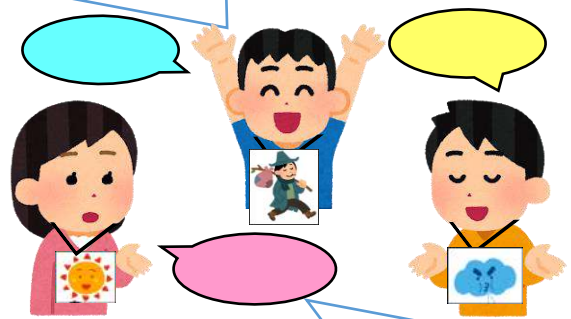
登場人物が多いときは、情報を精選する（例：場面ごとに確認する）とよい。

② 体感的に心情をもつことができるように、体験をとおして学習する

・ 役割演技をする。

ポイント！①

児童生徒に特定の役割を与えて演技する場合は、学習のねらいを踏まえ、どのような心情の理解を深めたいのか焦点を明確にし演じる場面を選定する。動作化・劇化するときは具体的な場面を取り上げたり、演じ方を明文化したりする。即興的に演じることが難しい場合は、実態に応じた困難さに対する配慮（例：演じる内容やポイントを確認してから取り組む）を工夫する。



ポイント②！

物語といった教材だけでなく、個々の児童生徒の興味や関心、生活に結び付けた具体的な題材を取り上げ、実際的な活動をとおして道徳的実践力を身に付けるよう指導する。



ポイント③！

演技前に、場面の状況や登場人物の心情等を教材に沿って確認した上で演じるとよい。確認する際は、音声言語のみではなく、可視化する。

イメージする・想像する

心情を理解する

<困難さ>

<指導の工夫の意図>

相手の気持ちを想像することが難しい

相手の気持ちを想像し、
他者の心情を理解できるように

<手立て>

動作化、劇化する

・具体的な場面に即した友達や教師の発言（具体的な台詞）や表情（演技・写真・絵）を取り上げる。

ポイント①！

取り上げる具体的な場面で、児童生徒がどのような道徳的価値（内容項目）について考えを深めていくのか、ねらいを焦点化し、学習内容を選定する。

（例）車椅子を使う人の気持ちを考えて、どのように行動すれば良いか考える。
【内容項目】小学校第5学年及び第6学年B 主として人との関わりに関すること
（7）誰にでも思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること相手のことを思いやり、進んで親切にすること。<親切、思いやり>
【ねらい】車椅子を実際に体験し、どのように行動するか考えることができる。
【学習内容】[車椅子に乗る] 役と [車椅子を押す] 役の両方の立場を演じる。

- ・段差があると、一人じゃ進めないなあ。
- ・ガタガタするのも嫌だなあ。



- ・段差があるときは、ガタガタしないようにゆっくり持ち上げよう。

ポイント②！

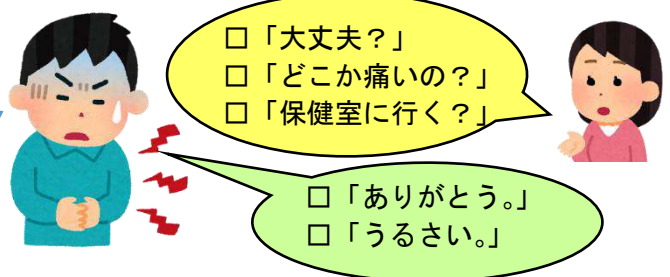
発言や台詞、表情等を視覚的に提示することで、内容を確認したり考えるためのヒントとして活用したりする。その際、表情や心情等イメージしにくいものは、絵や写真を提示したり、具体的な動作を取り入れたりするなど、児童生徒の困難さの状態に応じた指導方法を工夫する。
取り上げる場面は、児童生徒の興味や関心、生活に結び付けた具体的なものがよい。

・役割演技に複数の台詞を準備し、適切なものを選択する。

ポイント！

提示する台詞は、児童生徒がイメージしやすい、具体的で身近な言葉を用いる。言葉だけでは場面や心情をイメージしにくい場合は、その台詞に関連する絵や写真等を併せて提示するとよい。
取り上げた教材や演じる場面で、ねらいに沿って児童生徒の考えを深めたいことに焦点を絞り、台詞を選定する。

（例）友達がお腹を痛そうにしている。



- 「大丈夫？」
- 「どこか痛いのか？」
- 「保健室に行く？」

- 「ありがとう。」
- 「うるさい。」

・遠回しな表現をせず、具体的で簡単な表現をする。

（例）タブレットの使い方について伝える。

夜遅い時間に使うことはやめましょう。

- ・タブレットを使うのは…、
お風呂の時間までにしましょう。
- ・夜の8時までにしましょう。



遅い時間？夜中の12時くらいかな。

ポイント！

抽象的な表現から意味や意図を捉えるのが難しい場合は、より具体的な表現に言い換えたり、視覚的に確認できるようにしたりする。暗黙のルールについても、理解していることを前提とせず、学級のルールとして視覚的な提示等をしながら具体的に伝える。

総合的な学習の時間

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
何から調べてよいか分からない調べた内容をまとめることが難しい	必要な情報を整理し、まとめる手順や方法を理解することができるように

<手立て>

手順表、チェックシートなどで取り組み方を明確化する

- ・手順表や調べる項目を記したチェックシートなどを用意して提示する。



「〇〇について調べてまとめよう」と指示され、何をどうしてよいか分からない児童生徒は多い。そのような時は、手順や方法について明確化できる手段があるとよい。



ポイント！

手順表は児童生徒の実態に応じて黒板に貼り出したり、手元に置けるサイズのを準備したりするとよい。ICT機器を用いて提示する方法も効果的である。

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
学習の振り返りをすることが難しい	学習した場面を想起しやすいように

<手立て>

学習したことを写真などのデータで振り返る

- ・学習した内容を、写真で提示し、思い出すことができるようにする。
- ・活動日ごとに学習した内容を記録、保存しておき、振り返りの際に活用する。



学習活動の間隔が空いたり、不定期に行ったりするような活動では、前回行ったことを思い出すことが難しいことや、活動全体を振り返ることが困難な場合がある。



ポイント！

記録の方法は、文章・写真・音声など、本人が思い出しやすい方法で行う。
あらかじめチェックシートなどを用意しておき、記録しやすくする工夫も効果的である。



見る・観察する

イメージする・想像する

<困難さ>

必要な情報を見つけ出すことが難しい

<指導の工夫の意図>

調べた情報を取捨選択できるように

<手立て>

① 調べるためのポイントを示す

- ・本人に合った調べ方ができるように、様々な方法を提示する。
- ・調べるポイントに気づきにくいときは、あらかじめキーワードを絞って提示する。



ポイント！

一人での活動が難しいときは、友達と一緒に調べ学習を進めることで、ポイントをつかむことができる場合もある。



② 様々な情報を「見える化」する

- ・調べたことを付箋に書き、模造紙に貼って整理する。



ポイント！

項目ごとに分けられるように枠を用意しておくと、より整理しやすくなる。





特別活動




心情を理解する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
相手の心情を察したり理解したりすることが難しい	他者の心情等を理解しやすいように

<手立て>

① ロールプレイングを取り入れる	② イラスト等を活用して視覚的に表す
<p>・役割を交代することで、相手の気持ちを考えたり、立場による考え方の違いに気付いたりしやすい場面を設定する。</p> <p>ポイント①! 活動するグループを工夫し、安心して活動に参加できるようにする。</p> <p>ポイント②! グループ内の友達と良い関わりを通して、相手の気持ちに気付くようにする。</p> 	<p>・身近に起こりそうな問題をワークシートにし、場面を客観的に確認することで他者の心情に気付くことができる。</p> <p>ポイント! 状況を表したイラストの吹き出しに心情を入れていくことで、両方の感情に気付くことができる。</p> 

<手立て>

③ 気持ちを視覚的に示す
<p>・表情のイラストを用いて、気持ちの度合い「少し怒っている・とても怒っている」などを視覚的に捉えやすいようする。</p> <p>ポイント①! 怒りの程度等、分かりにくい場合には表情のカードと共に、数値化することでより理解しやすくなる。 (例)・普通⇒<0> ・怒っている⇒<5> ・とても怒っている⇒<10></p> <p>ポイント②! 状況が分かりやすい場面を設定し、場面の理解と相手の気持ちを考えるワークシートを活用することも有効である。</p>   

話す・聞く

<困難さ>

話を最後まで聞いて答えることが難しい

<指導の工夫の意図>

発言するためのルールや
タイミングが理解できるように

<手立て>

発言や質問するタイミング等について、具体的に伝え、視覚的に表示する



ポイント!

「手を挙げて発表しよう」等、
ルールを学級全体で確認し、イラ
スト等を用いて掲示する。

見通しをもつ

<困難さ>

学校行事における不安感から
参加することが難しい

<指導の工夫の意図>

学校行事について見通しをもち
積極的に参加できるように

<手立て>

① 見通しをもつことができるようにする



ポイント①!

映像や写真などを使って
活動のねらいや内容を事前
に伝える。

ポイント②!

参加できそうな活動を自
分で選ぶようにする。

ポイント③!

リハーサルをして事前に活動内容を伝える
ことで、当日の予測ができるようにする。

② 興味をもって取り組むことができるような活動を用意する



ポイント①!

得意なことが発揮で
きる役割を作るなど、
興味のある活動を部分
的に入れる。

ポイント②!

相性等を考慮し
て、グルーピング
する。

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
学級内の問題を自分事として捉えることが難しい	問題となる場面を視覚的に捉えられるように

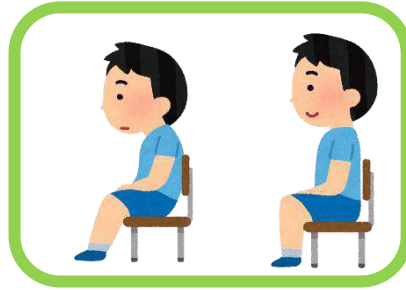
<手立て>

課題となる場面を視覚的に示す



ポイント①!

問題の場면을ビデオに撮ったものを客観的に観ることで、問題点に気付くことができる。



ポイント②!

児童生徒の授業中の姿勢など、写真に撮って示し、好事例として紹介することで意識することができる。

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
学級会の進め方を理解することが難しい	学級会の流れやルールを知り進め方をイメージすることができるように

<手立て>

基本的な進め方を具体的に示すようにする



ポイント①!

具体的な言葉を含めたシナリオを準備する。

ポイント②!

想定される質問などについてのやり取りを準備し、事前に練習しておく。

気持ちを表現する

<困難さ>

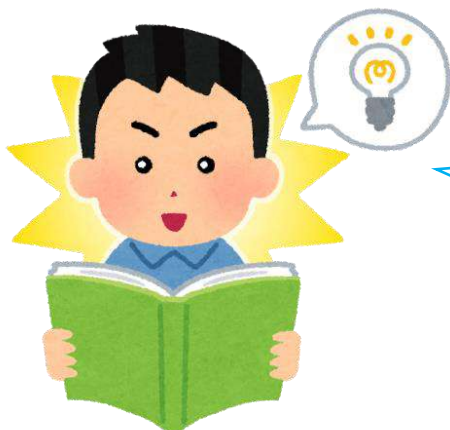
自分の考えを決めたり
文章にまとめたりすることが難しい

<指導の工夫の意図>

課題を理解し
自分の考えを決定できるように

<手立て>

選択肢の中から自分の考えに近いものを選ぶ



ポイント！

いくつかの候補を示し、その中から選ぶ。
自分の考えと近いものを選択することが難しい場合は、自分の考えとは違うものを選択肢から外すことができるよう、選択肢には正反対のものも入れておくようにする。

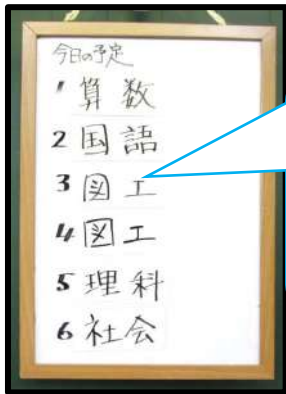
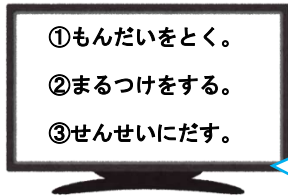



教室環境を整えよう

状況の把握をする

＜困難さ＞	＜指導の工夫の意図＞
日課や授業の活動内容に見通しがもてずに不安感がある	1日の学習予定や授業の流れ等学習活動の見通しがもてるように




＜手立て＞

① 1日の学習予定を掲示する	② 1時間の流れを視覚化する
 <p>ポイント!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業間休みや昼休みの行事 ・ 教室移動の有無 ・ 給食の献立や掃除場所 ・ 下校の時間 等表示できるとよい。 	 <p>ポイント! ①</p> <p>電子黒板を活用し、タイムリーな掲示物として活用する。</p>  <p>ポイント! ②</p> <p>残り時間が一目で分かるタイマーを活用する。</p>

刺激の調整をする

＜困難さ＞	＜指導の工夫の意図＞
掲示物や周囲の音が気になり集中することが難しい	刺激を調整し学習活動に集中できるように

＜手立て＞

① 掲示物の配慮	② 座席の配慮	③ 音に対する配慮
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室前面の掲示物を整理して、刺激を少なくする。 ・ 必要な掲示は可能であれば側面に移動する。 <p>ポイント!</p> <p>刺激の少ない教室前面</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外の様子が気になってしまう児童生徒は、廊下側に座席を用意したり、窓側の場合はカーテンを閉めたりする。 ・ 空調の影響を受けやすい児童生徒は、エアコンの風向きを考慮した座席を考える。 ・ 緊張によりトイレに行く回数が多い児童生徒は、廊下に出やすい場所に座席を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子や机の脚にカバーなどをつけ、音の刺激の軽減をする。  <p>ポイント!</p> <p>聴覚過敏の場合は、イヤーマフや耳栓を使用することも有効である。その際は本人や保護者の気持ちを確認しながら使う場面を一緒に決めることが大切である。</p> 

【編著者】 学びの困難さに応じた指導の手立て集 作成委員

NO	氏名	所属	職名
1	金子 勝一	葛南教育事務所	指導主事
2	矢作 聡子	葛南教育事務所	指導主事
3	高木 秀人	東葛飾教育事務所	主席指導主事
4	金子 淳一	東葛飾教育事務所	指導主事
5	古川 友行	北総教育事務所	指導主事
6	谷口 貴啓	北総教育事務所	指導主事
7	豊山 哲史	北総教育事務所（香取分室）	指導主事
8	鈴木 清美	北総教育事務所（海匝分室）	指導主事
9	長谷川 峰史	東上総教育事務所	指導主事
10	金澤 ゆき子	東上総教育事務所	指導主事
11	宮坂 拓也	東上総教育事務所	指導主事
12	関口 洋平	南房総教育事務所	指導主事
13	吉野 加津美	南房総教育事務所	指導主事
14	鈴木 希世佳	南房総教育事務所	指導主事
15	佐々木 操	南房総教育事務所（安房分室）	指導主事
16	山中 暢巖	総合教育センター（特別支援教育部）	研究指導主事
17	白井 貴	千葉市教育委員会（教育支援課）	主任指導主事
18	根本 敦	教育振興部 特別支援教育課 教育支援室	主幹兼室長
19	金田 幸夫	教育振興部 特別支援教育課 教育支援室	主席指導主事
20	高梨 美佐子	教育振興部 特別支援教育課 教育支援室	指導主事
21	鈴木 照子	教育振興部 特別支援教育課 教育支援室	指導主事
22	加藤 由美子	教育振興部 特別支援教育課 教育支援室	指導主事
23	島岡 奈緒美	教育振興部 特別支援教育課 教育支援室	指導主事



学びの困難さに対する指導の手立て集

令和4年3月 千葉県教育委員会
千葉市教育委員会